転身哲学

“17歳の犯罪”が新聞や週刊誌をにぎわせる昨今、教育現場はメーカー以上にきびしい“戦場”だ。そんな場に、あえて飛び込もうとしている元エンジニアがいる。元日産自動車で開発畑を長年務めあげてきた山上隆男氏だ。エリートエンジニアの地位を捨ててまで、第2の人生を歩もうとしている山上氏に現在の心境と将来への抱負をきいた。

Report:石山祥子（Shoko Ishiyama）

高校では、全国初の民間人校なるひとりに選ばれた山上隆。元は日産自動車のビジネスだった。

全国初の民間人校長は元日産で品質管理の責任者

学校教育施行法が改訂されたため、教員免許を持たない者でも校長として教職に就くことが可能になったのはごく最近。これをうけて東京都教育委員会に民間企業から校長としてふたりが採用された。もちろん全国ではじめての試みである。

選ばれた校長のうちのひとりが、元日産自動車のエンジニアだった山上隆男氏だ。山上氏は、２００２年に開校が予定されている羽田地区総合学科高校（仮称）の校長となる。この高校は、工業系中心の単位制高校で、従来のようなクラス分けなどもなく、大学に近いシステムをとるユニークな高校とされている。長年にわたり、日産という日本の自動車産業を代表する企業の第一線で活躍し、エリートビジネスマンだった山上氏が、なぜ教師というまったく別種の仕事への転身を決意したのだろうか。

やはり、日産から教育者へという大胆な方向転換にあたって、まったく心残りがないわけではないというのがホンネだという。

「志半ばにして というじくじたる思いも正直言ってありますよ。日産自身が（リバイバルプランによる改革の）旗ふりの時期で、私自身も社員のひとりとして取り組んでいたところでしたから」と山上氏は心境を語ってくれる。

日産を退職する直前まで山上氏は、社内におけるQCサークルの責任者を務めていた。QCサークルとは、職場の問題点を見つけて社員で改善に取り組み、生産性や開発の成果をあげることを目的としたグループのことだ。同時に、関東支部の幹事長でもあった山上氏は、幅広いネットワークで得た人脈や情報を、日産の改革に役立てていく仕事を務めていたのだった。

もともと山上氏は、１９６９年に東北大学工学部を卒業して日産自動車に入社し、それから23年間もエンジン開発に携わってきた生粋のエンジニアだ。その後85年には、お客様サービス本部の品質保証部・技術主管に転じた。研究の現場を離れ、人材育成やマネージメントにあたる役割に転じたわけだ。この課には、３３０人もの社員が在籍しており、それ以降はずっと、この大きな組織を運営してきた。その苦労はなみたいていではなかったという。

山上氏は「人間を動かし、効率を上げてゆくという仕事は、命令や報

山上氏が校長となる予定の羽田地区総合学科高校（仮称）の完成予想図。2002年に開校が予定されている。

●短信● **光岡自動車は、英国で伝統と人気のあるロンドンタクシー「TX1」の輸入販売を始めることを明らかにした。価格は595万円で観光や送迎用に年間100台の需要を見込んでいる。**

山上氏は、かつての名車スカイラインGT-Rのエンジン部分の開発にも携わっていた経験がある。その後もとくにエンジンの触媒に関する開発に長く携わった。

エンジニアから教育者へ

全国初の民間人校長となった元日産ビジネスマン

突然に開けた教職への道 経営的センスが期待される

そんな山上氏に「校長にならないか」と人事部から話があったのは2000年の5月末、突然のことだったという。もともと、都教委は、民間人を校長として採用することを決めており、その段階で商工会議所に人選を依頼していた。そこで候補となった企業のなかに、日産があった。こうした経緯を経て、日産内で検討された結果、山上氏がすいせんされた。上層部から白羽の矢を立てられたというわけだ。

「最初に話を聞いたときはとても驚きました」と山上氏は話している。しかし、教育改革についての主旨や、設立される高校が総合学科であることを知って、大変興味深くも感じたという。

「自分としては人材育成に向いているという自覚もあって、新しい環境で 経営 手腕をふるってみたいという気持ちもありました」と、山上氏は当時を振り返る。都教委の試験だけでも受けてみよう、と決心したのは、最初に話を聞いてからわずか1時間後だったという。

事前に『これまでの経験や能力を学校経営にどう生かすか』というテーマでレポートを提出していたので、試験自体は、面接のみだった。そのレポートのなかで山上氏は、「目標や理念を大切にし、調和を心がけたネットワークづくり」を提案していた。面接はその内容についてのディスカッションのようなものだったという。

このことから、都教委が、校長を採用するにあたって重視したのは、経営能力 であったことがわかる。現在、教育現場では、少子化の進行や激化する少年犯罪などにともなって、さらなる改革が叫ばれている。公務員的な体質に慣れ切った既存の教育者とは違った 血 を導入するのも、ひとつの方法として検討されたのだろう。民間企業で辛労し、実力を持った人間にリーダーシップを発揮してもらいたいというねらいがあったわけだ。

山上氏自身も日産での経験は今後も大きく役立つだろうと考えている。

「どんな組織も、すべては人がつくりあげているものです。ならば人をどう動かし、育て、活性化させるかというやり方のベーシックはいっしょのはずですよね」と話す。日産で携わってきた人材育成や管理の経験は、学校のスタッフに対しても生きてくるとの考えだ。

赴任する都立高校にも、民間経営ならではの競争原理が持ち込まれるだろう。これによって「生徒たちの向上心を活性化させてゆきたい」とも語る。

「最近の10代の子は、夢ややりがい、生きがいを見失いがちです。勉強だけに限らなくともよいので、早く心地のよい居場所を見つける手助けをしたい」というのが、現在の山上氏の目標だ。

また、いずれは校則もなくして生徒自身がルールを決められる学校を目指すという。また、朝礼や行事などもゼロの視点に戻って、本当に必要かどうか見きわめてゆきたいとのこと。ここでも日産時代に培った自由の重要性と、能率を重視する山上氏ならではのユニークな教育方針がうかがえる。

前述した通り、山上氏は7月31日に日産を退社。8月1日づけで都教委に入り、新設準備担当校長となった。現在は研修や視察など多忙な日々を送っている。

あまりの急展開に不安はないのかという問いに対し「一度しかない人生で、複数の仕事を経験できることも貴重なチャンスかな」と笑顔で答えている。

現在、山上氏が校長として赴任する予定の高校では、急ピッチで建設作業が進んでいる。山上氏が勤務する事務所も、この敷地内にある。

●短信● 長野県の田中康夫知事は、選挙運動中の公約どおり知事公舎に入居せず、賃貸マンションへの入居を決めた。県費から賃貸料は支給されない。